



野田小学校 学校だより

南風の丘から

学校づくりのモットー
明るく楽しく美しく

校長 大嶋博之

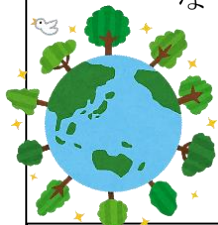
学校行事で学びたい

運動会を絶好の空の下で行って一週間、大きな行事をやり終えて、子どもたちはまた一つ成長したように感じます。特に五・六年生は、学校のリーダーとして自覚が高まり、下学年といっしょに活動するときは、目配り・気配りができるようになってきています。これからも大小いくつも行事や児童会活動などを行っていきませんが、これらの「意義」や「価値」については、大きくは次のように考えています。

- ・企画力や構想力、実行力を高める。
- ・リーダーシップやフォロワーシップを育み、力を合わせる方法を学ぶ。
- ・教科授業や道徳の時間などで学んだことを繋ぎ合わせて学びを深める。
- ・感動の体験を積む。

そして、これからの時代を考えると「費用対効果」や「生産性」、未来を創る児童個々の「キャリア形成」や「SDG.S」などを踏まえたものにしななければと考えています。

SDG、S…持続可能な社会の実現をめざす目標



(上段からつづき)
このことから、これからの行事や児童会活動等を進める上では、次のことを念頭に置きたいと考えています。

- ・行事と教科授業をもっと関連づけるとともに、児童個々の未来への夢や希望につながるようにする。
- ・児童の主体性を育み、自分で考え、自分から動くことができるようにする。
- ・右の指導を深く広くできるように、行事自体の規模や時間を拡大せず、児童・教師ともに考える時間を増やす。

いづれにしても、子どもたちの「何を」育み伸ばすかをしっかりと見定めて、決して自己満足に陥らないよう、子どもたちと子どもたちが歩む未来を見つめて進んでいきたいと思えます。

〈これからの行事等 一学期(抜粋)〉

- ・宿泊体験学習(5年生、6月3・4日)
- ・こめ作り(5年生、秋まで)
- ・いも作り(一・二年生、秋まで)
- ・消防施設見学(2年生、6月9日)
- ・商業施設見学(2年生、6月10日)
- ・長崎っ子の心を見つめる教育週間(全校、6月18日～24日 授業参観 他)
- ・社会科見学(四・五年生、6月29日)
- ・平和教育(全校、8月9日まで)
- ・終業式(全校、7月20日)

〈コラム あかね雲〉

「観測史上初の…」

やっぱり異常気象かと思いきや、今年の梅雨入りの早さは史上二番目だとか。(一番は一九五六年) 気象庁ホームページ掲載の「気象ランキング」に長崎も入っていましたので紹介します。

- ・最低気温の高さ：三〇.一度 (一〇位、口之津、二〇一七年八月五日)
- ・最大一時間の降水量：一五三mm (二位、長崎長浦岳、一九八二年七月二十三日)
- ・最大風速：六〇.〇m (四位、雲仙岳、一九四二年八月二十七日)

これらの記録を塗り替える速度が速まっていると言われていますので、キーワードとされる「脱炭素」について、“平時”の間に考え、行動しなければと思っています。



《 主な行事予定 》

- <6月>
- 3日(木)…宿泊体験学習(5年生)～4日(金)
 - 14日(月)…個人面談～25日(金)
 - 17日(木)…代かき(田んぼ作り、5年生)
 - 18日(金)…長崎っ子の心を見つめる教育週間～24日(木)
 - 21日(月)…田植え(5年生)
 - 22日(火)…道徳授業参観、学級部会
 - 24日(木)…おやじの読み語り
 - 25日(金)…平和教育月間～8月9日(平和集会)
 - 29日(火)…社会科見学(4・5年生)
- <7月>
- 20日(火)…1学期終業式

《心に響いた言葉》 「先生、すごく楽しかったです。」

パソコントレーニングの時間が終わった後の大野さん(5年生)の言葉から。こんな言葉に教師は励まされます。



シリーズ「令和の日本型教育」とはなんぞや？

〈第一回〉

「学力の確実な定着等の 資質・能力の育成」について

「令和の日本型教育」が求める『学力』に関するものについて、文科省から出ている資料を整理してみました。

- 〈伸ばしたい資質・能力〉
- ・「学びに向かう力、人間性」「思考力、判断力、表現力等」「知識・技能」
- 〈整えたい環境〉
- ・パソコン等を活用した「個別最適」で「協働的」な学びができる場
- ・「推進したいこと」
- ・教科等横断的な学習、校種間連携
- ・キャリア教育、外部人材活用
- ・児童生徒の可能性の伸長

「これらを一言でまとめると、次のようになるのではないかと考えています。」

一人ひとりの子どもの内側から湧き出る「学びへの欲求」を大切にしたい。

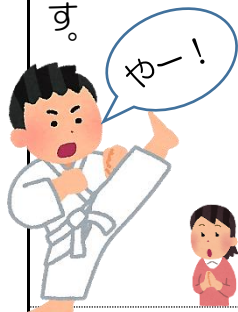
授業の形としては、「みんなでそろって一つの目標へまっしぐら」という一斉授業オンラインの世界から

「個々の児童を

自立型人間に育て

上げる授業」への

転換だと捉えています。



野田小学校での構想

さて、本校では…というところですが、具体的な授業改善の方向性を左に挙げてみました。



〈授業の形〉

- もつと児童の声が聞こえる授業へ
- ・発表・発言の機会を増やす。
- パソコンという道具を活用する日常へ
- ・今までできなかったことができる道具として日常的に使い倒す。
- 他の学習内容とつながる授業へ
- ・他教科や校外での学習とつなぐ。
- ・中学校、高校、その先へと、学びをつなぐ。

〈教師の取組・姿勢〉

- ほめる・認める（自己肯定感を高める）
 - ・「叱るなら、四つほめておく。」
 - ・できていないことを指摘するより、できている分をまずは認める。
 - ・「ティーチャー（教える人）」から「ファシリテーター（伴走者・助言者・支援者）」へ。
 - 「自分（児童）から」の徹底
 - ・「どう思うか」をまずは聞く。
 - ・「何をしたいか」や、その先にある「その実現に何が必要か」を考えさせる。
 - ・「やりの力（実行力）」を高めさせる。
 - 全体でなく「一人ひとり」として観る
 - ・個々の児童が抱く夢や希望（キャリア形成の方向性）に関連付けて授業を仕組む。
- これから、実際に授業を行う先生たちと、「この授業ではこうしよう」、「あの授業ではこう変えていこう」、「自分たちはこう変わるう」などと、詰めていきたいと思えます。

ふるさとの文化・歴史・人物——野田小教育の視点から

「北村西望翁が見た風景」

私は、南有馬町白木野地区にある西望記念館から見る景色が好きです。眼下に広がる町並みと青く光る有明海、その向こうに天草の島々と阿蘇の山々。左手には高く聳える雲仙普賢岳。夏の真つ青な空に入道雲が昇る頃はまた格別。美しい風景は、人の心に情緒をはぐくむと、藤原正彦氏は「国家の品格」で述べていました。豊かな情緒は、天才を生む素地であるとも。

「たゆまざる

歩みおそろし

かたつむり」

平和祈念像の作者としても知られる北村西望翁が描いた平和な世界への道のりは、遙か遠いかもありませんが、一歩ずつ歩み続けたいと思います。



（写真は、記念館近くの谷水棚田で、この近くに私のお気に入りの見晴らしポイントがあります。）

【お知らせ】熱中症予防のために

気温の高まりとともに熱中症のニュースが多くなってきました。これまで以上に小まめな水分補給が必要ですので、大きめの水筒を持たせていただきますようお願いいたします。

